

## 2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertension Research 2006;29:161-167	Normal and high-normal blood pressures, but not body mass index, are risk factors for the subsequent occurrence of both preeclampsia and gestational hypertension: retrospective cohort study.	Ohkuchi A, Matsubara S, et al.	Obstetrics and Gynecology
J Obstet Gynaecol Res 2006, 32:10-14	Changed in plasma levels of hepatocyte growth factor (HGF) and its associated factors during pregnancy.	Watanabe T, Matsubara S, et al.	Obstetrics and Gynecology
Eur J Gynaecol Oncol 2006, 27:53-55	c-kit overexpression in neuroendocrine small cell carcinoma of the uterine cervix.	Ohwada M, Suzuki M, et al.	Obstetrics and Gynecology
Mol Cancer Ther 2006, 5:767-775	Prediction of individual response to platinum/paclitaxel combination using novel marker genes in ovarian cancers.	Ohwada M, Suzuki M, et al.	Obstetrics and Gynecology
Hypertension in pregnancy 2006, 25:255-257	Hydrocephalus after intraventricular hemorrhage in eclamptic woman with HELLP syndrome.	Hirashima C, Ohkuchi A, et al.	Obstetrics and Gynecology
Hypertension in pregnancy 2007, 30:151-159	Alterations in placental growth factor levels before and after the onset of preeclampsia are more pronounced in women with early onset severe preeclampsia.	Ohkuchi A, Hirashima C, et al.	Obstetrics and Gynecology
Int J Cancer 2007, 120:278-284	Suppression of ovarian cancer by muscle-mediated expression of soluble VEGFR-1/Flt-1 using adeno-associated virus serotype 1-derived vector.	Takei Y, Mizukami H, et al.	Obstetrics and Gynecology

計9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
CLINICAL NEUROSCIENCE24:763-766	失語の近赤外線光トポグラフィー	渡辺英寿	脳神経外科

計 1

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。  
(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)  
2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床神経学 46:687-692, 2006.	筋ジストロフィー患者では高率に抗・1アドレナリン受容体抗体が存在する。	松村剛、吉尾卓、	循環器内科
J Cardiol 49:199-203, 2007.	Papillary fibroelastoma in the right ventricular outflow tract.	Tomizawa H, Yama	循環器内科
Hypertension. 2006;47:139-140.	Caution for winter morning surge in blood pressure. A possible link with cardiovascular risk in the elderly.	菊尾 七臣	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 153-159.	The Japan Morning Surge-1 (JMS-1) study: Protocol description	石川 譲治 菊尾	循環器内科
J Clin Hypertens 2006; 8: 404-410.	Impact of blood pressure vs. glycemic factors on target organ damage in patients with type 2 diabetes mellitus	江口 和男 菊尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 581-587.	Morning hypertension: The strongest independent risk factor for stroke in elderly hypertensive penitents.	菊尾 七臣	循環器内科
J Hum Hypertens. 2006;20:801-803	Severe orthostatic hypotension with diabetic autonomic neuropathy successfully treated with a betal-blocker: a case report.	江口 和男菊尾	循環器内科
Hypertens Res. 2006; 29:297-8.	Low-density lipoprotein subfraction as a new risk factor for silent cerebral infarction in hypertensive patients.	星出 聡菊尾 七	循環器内科
Curr Hypertens Rep. 2006;8:363-367.	The value of home blood pressure monitoring.	菊尾 七臣	循環器内科
Hypertens Res 2006;29, 679-686.	Regular alcohol drinking is a determinant of masked morning hypertension detected by home blood pressure monitoring in medicated hypertensive patients with well-controlled clinic blood pressure: The Jichi Morning Hypertension Research (J-MORE) study	石川 譲治菊尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29, 695-702.	A new technique for detecting sleep apnea-related "midnight" surge of blood pressure.	菊尾 七臣	循環器内科
Am J Hypertens 2006;19:1018.	Exaggerated morning surge in blood pressure in hypertension.	石川 譲治菊尾	循環器内科
Hypertens Res 2006; 29: 937-940.	Focus on Masked Workplace Hypertension: The Next Step for Perfect 24-Hour Blood Pressure Control	菊尾 七臣	循環器内科

計13

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績 [平成18年4月～平成19年3月まで]

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床外科学会雑誌 67(4):829-833	精神・神経疾患に合併した結腸軸捻転症の4手術例	瑞木 亨	消化器・一般外科
日本門脈圧亢進症学会雑誌 11(3):277-280	食道・胃静脈瘤手術におけるLigaSure™の使用経験	瑞木 亨	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 69(2):88-89	陥凹内隆起を認めたⅡc型大腸粘膜内癌の1例	濱田 徹	消化器・一般外科
外科 68(6):728-731	放射線性膀胱炎を原因とする膀胱自然破裂による急性腹症の2例	濱田 徹	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 69(2):56-57	広範な縦隔気腫をきたした食道異物(有鉤義歯)の1例	平嶋勇希	消化器・一般外科
Therapeutic Research 27(6):1026-1027	クリニカルパスを用いたヘパリンカルシウム投与による術後静脈血栓塞栓予防と出血性合併症について	堀江久永	消化器・一般外科
Progress of Digestive Endoscopy 68(2):136-147	内視鏡所見から虫垂原発腫瘍と診断された虫垂粘膜嚢腫の1例	石黒保直	消化器・一般外科
Surgery Today 36(12):1063-1068	Favorable effects of preoperative enteral immunonutrition on a surgical site infection in patients with colorectal cancer without malnutrition	Horie, H.	消化器・一般外科
Digestive Surg. 24(3):169-172	Minimum leakage rate(0.5%) of stapled esophagojejunostomy with sacrifice of a small part of the jejunum after total gastrectomy in 390 consecutive patients	Hyodo, M.	消化器・一般外科
Oncogene 25(1):139-146	Epigenetic silencing of AXIN2 in colorectal carcinoma with microsatellite instability	Koinunma, K.	消化器・一般外科
Surgery Today 36(5):425-435	Preoperative cardiac evaluation: when should the surgeon consult the cardiologist?	Koizumi, M.	消化器・一般外科
Surgical Endoscopy 24(8):13	Local gasdorm formation system(LGDFS) for emergency surgery	Ohdaira, T.	消化器・一般外科
Eur. Surg. Res. 39(1):17-22	Effects of simultaneous hepatic resection on healing of left-sided colonic anastomoses:An experimental study in rats	Sasanuma, H.	消化器・一般外科
Scandinavian Journal of Surgery 95:176-179	Simultaneous colorectal and liver resections for synchronous colorectal metastases	Sasanuma, H.	消化器・一般外科
Surg. Endosc. 20:830-833	Retroperitoneal hand-assisted laparoscopic surgery for endoscopic adrenalectomy	Sata, N.	消化器・一般外科
ANZ J Surg. 76(12):1101-1105	Magnification chromo-colonoscopy	Togashi, K.	消化器・一般外科

計282

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当って内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 「発表者氏名」欄は、一つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

管理責任者氏名	病院長 島田 和幸
管理担当者氏名	事務部長 内田 光俊

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方箋、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、 退院した患者に係る入院期間中の診療 経過の要約		病歴室 及び それぞれの部署 にて電子管理	一患者毎の患者受診登録番号による
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業員数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営管理課	
	高度の医療の研修の実績	経営管理課	
	閲覧実績	経営管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	経営管理課及び薬剤部	
保規 の則 状第 9 条の 2 3 及び 第 1 1 条各 号に 掲げ る体 制確	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	人事課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	人事課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	人事課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保の状況	経営管理課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策部	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入する。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 島田 和幸
閲覧担当者氏名	事務部長 内田 光俊
閲覧の求めに応じる場所	会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	59.2%	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A : 紹介患者の数	22,659 人	
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	22,355 人	
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,303 人	
	D : 初診の患者の数	55,920 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dはそれぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (3名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (10) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全対策の推進 (職員研修の企画、運営、情報の収集・提供等)</li> <li>・ 医療事故発生時の対応</li> <li>・ 医療安全対策委員会及びリスクマネージャー会議の開催</li> </ul> </li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有 ・ 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本理念</li> <li>・ 医療安全対策委員会、院内組織に関すること</li> <li>・ 医療事故報告</li> <li>・ 医療安全確保のための改善方法</li> <li>・ 重大事故発生時の対応</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 安全管理の体制確保のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インシデント・アクシデントレポートの報告状況</li> <li>・ 事例報告、検討</li> <li>・ 医療安全対策</li> </ul> </li> </ul>	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 30 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心静脈カテーテル挿入確認研修</li> <li>・ 輸液、シリンジポンプ研修</li> <li>・ 研修医研修</li> </ul> </li> </ul>	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有 ・ 無)</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例検討会</li> <li>・ 院内の巡視</li> <li>・ リスクマネージャー会議や医療安全対策講演会などでの事例報告、対応策等の周知</li> </ul> </li> </ul>	